生徒に見られるつまずき

語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

類義語を調べる時に、どの言葉が使う場に的確か吟味することで、豊かな表現ができるようにする。

指導事例集ｐ．５５

１　学年・単元名　第１学年

「芸術作品の鑑賞文を書こう！」

『芸術作品の鑑賞文を書く』(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

２　単元目標

芸術作品を鑑賞し、自分が選んだ絵の魅力を鑑賞文で伝える。その過程で、類義語を調べ、言語に対する興味をもち、語彙を増やす。

３　単元の内容

　・いくつかの観点から絵を鑑賞し、絵の魅力を言葉にする。（マッピングを書く）

→マッピングの意見交流

資料　①　単元構想　マッピング

資料　②　ワークシート右　推敲前

　ワークシート左　推敲後

　・鑑賞文を２００字で書く。

　・ＮＧワードを伝え、違う表現を辞書等で探し、推敲する。

　・同じ作品を選んだ者同士で意見を交流する。

　・推敲前と推敲後の印象に違いがあるかを考える。

４　本時の目標　　（本時は第３次）

　　第１次　自分が選んだ絵の魅力を、さまざまな角度から表現できる。

　　　　　　絵の魅力が伝わるように鑑賞文を書くことができる。

　　第２次　類義語を探して、語彙を増やすことができる。

　　第３次　同じ絵を選んだ者同士で意見を交流し、表現方法の違いに気づくことができる。

５　展開　**太字はつまずきに対する手立て**

　　　◯第１次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　２枚の絵を鑑賞し、気に入った絵を１枚選ぶ。 | ◯　タイプの違う絵を２作品選び、印象に残った絵を選ばせる。 |
| 展開 | ２　絵の魅力をさまざまな角度から表現し、　　言葉にしていく。（マッピング）資料　① | ◯　色彩・明るさ・イメージなど、**さまざまな観点から絵を鑑賞し、言葉をできるだけ多く出させる。** |
| ３　マッピングの意見を班で交流する。 | ◯　他の人のマッピングを見て、自分のマッピングに付け足してもよい。 |
| まとめ | ４　マッピングで出てきた言葉を類別し、鑑賞文を２００字で書く。資料　②　ワークシート右　推敲前 | ◯　どの言葉で絵の魅力を伝えるのかを選別させ、鑑賞文を書かせる。 |

　　◯第２次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　前時に書いた鑑賞文からＮＧワードを探し、チェックする。資料　②　ワークシート右　推敲前 | ◯　**「いい」「すごい」「思う」など、生徒がよく使う言葉をＮＧワードに設定し、**違う表現を探すよう指示する。 |
| 展開 | ２　類義語辞典やパソコンを使い、類義語を調べる。 | ◯　たくさんある類義語の中から、**自分が表現したいことを一番的確に表している言葉を選ばせる。** |
| まとめ | ３　選んだ類義語に置き換えて、鑑賞文を書き直す。資料　③　ワークシート左　推敲後 | ◯　**選んだ類義語を適切に用いて鑑賞文が書けているかを吟味しながら書き直し**をさせる。 |

　　◯第３次

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　同じ絵を選んだ者同士で４人班を作る。 | ◯　同じ絵を選んだ者同士で４人班を作らせる。メンバーに偏りがないよう、教師が班を作っておく。 |
| 展開 | ２　班で鑑賞文を読み合い、感想を書く。表現方法の違いを知る。 | ◯　他者の鑑賞文を読み、**表現の仕方や言葉の選別の違いに気づかせる。**よかった点などを感想に書かせる。 |
| まとめ | ３　他者の鑑賞文と自分の鑑賞文を比較し、参考になった点など、授業全体を通して学んだ事を振りかえる。　 | ◯　授業全体を通して振り返りをさせ、今後の学習や表現活動に役立てるようにする。 |